

うるま自衛隊訓練場断念を 保革超え「会」結成

沖 縄

防衛省が計画する沖

縄県うるま市石川のゴ
ルフ場跡への陸上自衛
隊訓練場の整備を巡
り、保守・革新などの

立場を超えた地元の17

団体でつくる「自衛隊

訓練場設置計画の断念

を求める会」が10日、
同市石川地区で結成さ
れました。



経済の中心として石川
地区に置かれた諮詢

(じひゅん) 会いのも
に、戦後沖縄の出発点
として機能した、歴史
ある石川部落事務所
(当時、市役所として
使用) で結成式が開か
れました。

「自衛隊訓練場設置計
画の断念を求める会」
の結成式の会場に出席す
る(手前左から)伊波
洋正、伊波常洋、山内
杰子の各氏=10日、沖
縄県うるま市

B会会長、久高政治
「石川・富森630
会」会長が就任。幹事
団体には、ゴルフ場跡
を抱える旭区自治会な
ども名を連ねました。

洋共同代表は、保革が
石川地区の選挙で激し
い争いを続けてきた歴
史などを紹介。国が昨
年12月に突然、地元の
頭ごしに計画を明らか
にした訓練場整備につ
いて、「行政的な手順
があまりにもすさんで
横暴である。保革を超
えてダメなものはダメ
といふ」とで県にも國
にも訴えていきたい」

と述べました。
1950年に米軍ジ
エット機が宮森小学校
に激突した事故で、機
体になつた当時の児童
の同級生でもある久高
共同代表は「また同じ
ような事故が起らるの
ではと懸念した。國の
横暴をばね返すため、
県全体の問題として多
くの人に考えてもらわ
なければ」と語りました。